

The 44th Annual Meeting of Japanese Society of Transactional Analysis

日本交流分析学会 第44回学術大会

プログラム・抄録集

テーマ

交流分析の新たな一歩

会期

2019年
5月31日(金)～6月2日(日)

会場

ルーテル学院大学
東京都三鷹市大沢3-10-20

大会長

田副 真美 ルーテル学院大学

JAPAN LUTHERAN COLLEGE
Japan Lutheran Theological Seminary

The 44th Annual Meeting of Japanese Society of Transactional Analysis

日本交流分析学会 第44回学術大会

プログラム・抄録集

テーマ 交流分析の新たな一歩

会期

2019年
5月31日(金)～6月2日(日)

会場

ルーテル学院大学
東京都三鷹市大沢3-10-20

大会長

田副 真美 ルーテル学院大学

大会長挨拶

日本交流分析学会 第44回学術大会
大会長 田副 真美
ルーテル学院大学

このたびルーテル学院大学で日本交流分析学会第44回学術大会を開催することになりました。ルーテル学院大学の教員が大会を開催するのは2回目で、西暦が変わる2001年に、現ルーテル学院大学名誉教授の白井幸子先生が、「21世紀における日本社会と交流分析の役割」というテーマで第26回大会を開催しました。そして、元号が変わる2019年に、第44回大会をルーテル学院大学で開催させていただくことになり、深い縁を感じるとともに、このような機会を与えてくださいましたことに感謝申し上げます。テーマは、「交流分析の新たな一歩」としました。

私と交流分析との出会いは、大学3年生の時に日本大学板橋病院心療内科の桂載作先生のもとで研修生をしていた頃です。40年近く前のことです。その当時、心療内科では、心身医学的なアプローチとして様々な心理療法の勉強会を外部の先生をお呼びして行っていました。その中で、交流分析では深沢道子先生のご講義を数回にわたり受講することができました。また、臨床場面では、中村延江先生の思春期や中年期の交流分析グループ療法の陪席などをさせて頂きました。そして当時は、日本交流分析学会の事務局が日本大学に置かれたばかりで、初代の事務局員として、桂先生を始め心療内科の先生方にサポートしていただきながら事務的な作業を行っておりました。このように、交流分析の草分け的な先生方のご講義やご指導を受け、現在の心身医学領域における心理臨床の基盤を育ててくださったことに深く感謝を申し上げます。

さて、大会の概要ですが、学術大会では、一般演題、シンポジウム、特別講演、招待講演、理事長講演を予定しています。シンポジウムでは、交流分析の理論の中心となる理論として位置づけられている人生脚本の理論、脚本分析について、医療、教育、司法領域でご活躍の先生方のご講演を予定しています。お昼の総会は、本学のチャペルで行う予定です。総会の前にパイプオルガンの演奏を予定しております。ぜひ、お集りください。このパイプオルガンは、フランスの名工、ガルニエ一家の手によって製作され、2016年に完成しました。839本のパイプが奏でる音を聞き、しばしくつろいでいただき、午後からのプログラムへの活力を養ってください。

翌日の講習会では、基礎講習会とアドバンス講習会を並行して行います。基礎講習会では、前半に花岡啓子先生の交流分析の理論の概要、後半に中村延江先生の脚本分析の事例を含めた講義を予定しています。そして、アドバンス講習会では、白井幸子先生による再決断療法の理論と実際についての講義を予定しています。講師の先生方は、長年、臨床実践に携わっており、交流分析の基礎から実践と幅広く学ぶことができますと思います。

元号が平成から令和になった最初の大会になります。学術大会および講習会の様々な経験が、皆様の「交流分析の新たな一歩」となれば幸いです。

参加者へのご案内

- 参加受付 6月1日(土) 8:20
6月2日(日) 9:00

◆参加費(当日受付のみとなります)

参加区分		当日
一般	会員	8,000円
	非会員	10,000円
学生		2,000円

※参加費には抄録集費用が含まれております。

◆講習会

参加区分		当日
一般	会員	8,000円
	非会員	10,000円
学生		5,000円

※当日受付も行っております。

◆情報交換会費：3,000円

大会第1日目(6月1日(土))18:00より情報交換会を開催いたします。

多数の皆様のご参加をお待ちしております。

会場：ルーテル学院大学ブラウンホール 2階 252教室

※つり銭のいらないように現金をご用意ください。クレジットカードは使えません。

※会期中、会場内では参加証を必ず着用してください。

※学生の方は、当日受付に学生と証明できる書類(学生証他)をご提示ください。証明するものがない場合、学生扱いとなりませんので、あらかじめご了承ください。

※著作権保護および個人情報保護の観点から、会場内での写真撮影、録音、録画等を禁止とさせていただきます。

■取得可能な単位

- 日本心身医学会専門医 ⇒ 学術大会参加(3ポイント)
- 日本心身医学会心身医療専門医 ⇒ 学術大会参加(3ポイント)
- 心身医学会認定医療心理士 ⇒ 学術大会参加3ポイント、
演者は2ポイント加算
- 臨床心理士 ⇒ 学術大会参加2ポイント、演者は2ポイント加算

講習会のみ参加の場合は
ポイントは取得出来ません

学術大会と講習会両方参加の場合は
それぞれでポイントが取得できます

※臨床心理士の方の講習会ポイントについて

講習会は日本交流分析学会とルーテル学院大学との共催となっております。

○日本交流分析学会発行の受講証は3群
(協会が認める関連学会主催の講習会)となります

○ルーテル学院大学発行の受講証は4群
(協会が認める心理学に関する講習会)となります

当日どちらか1つを選択して下さい

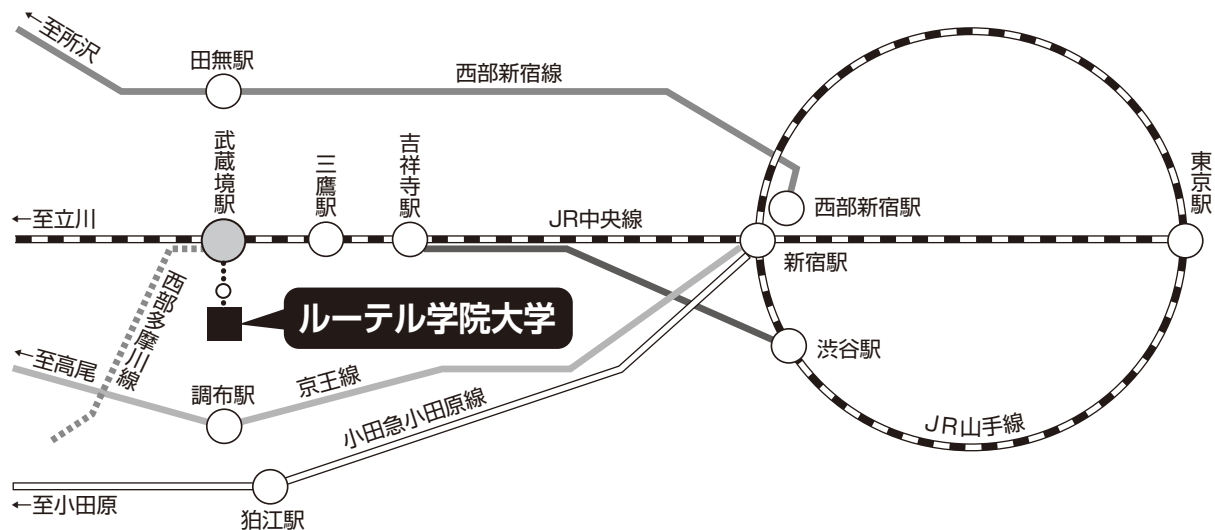
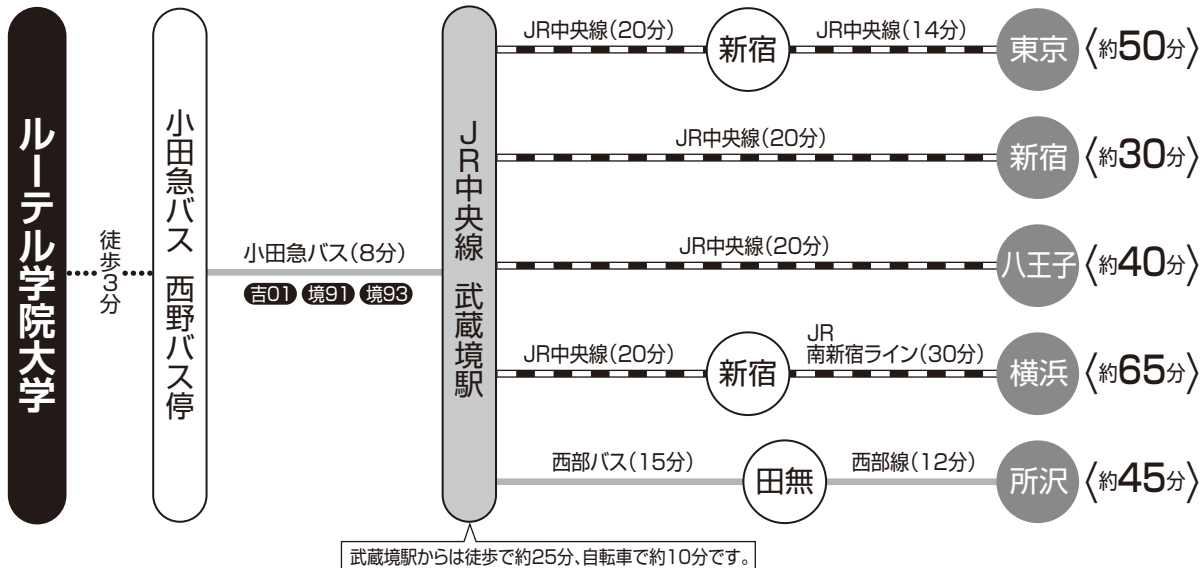
■会場の利用について

- チャペル内は飲食禁止になります。
- 飲食は食堂や教室をご利用いただき、その際に出たゴミは各自でお持ち帰りください。
- 食堂は開放しておりますが、食事の提供はございませんので各自でご用意ください。
- 自動販売機はトリニティホール 1F ラウンジ、食堂にございます。

〈連絡先〉 〒181-0015 東京都三鷹市大沢3-10-20 ルーテル学院大学内
日本交流分析学会第44回学術大会事務局
E-mail : jsta2019@gmail.com

会場アクセス図

※下記の時間は出発駅から「西野バス停」までの所要時間の概算です。



会場アクセス図



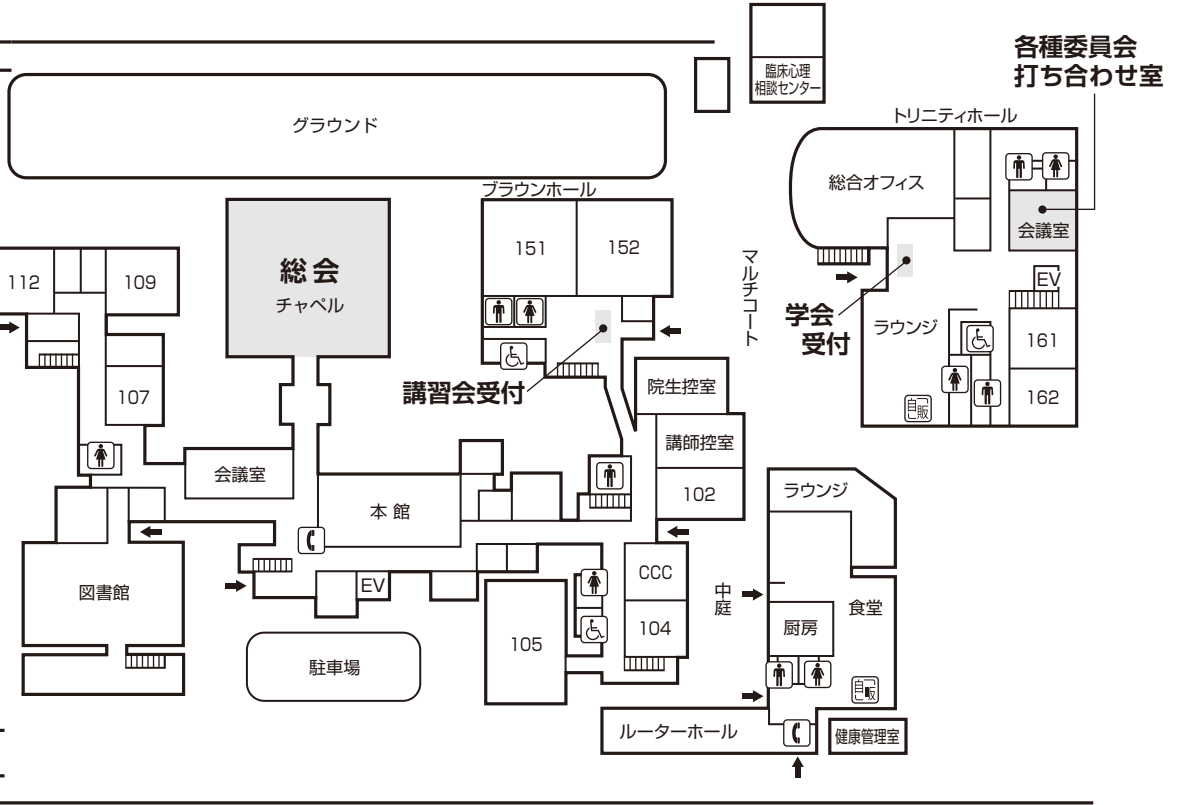
会場案内図

↑至西野バス停

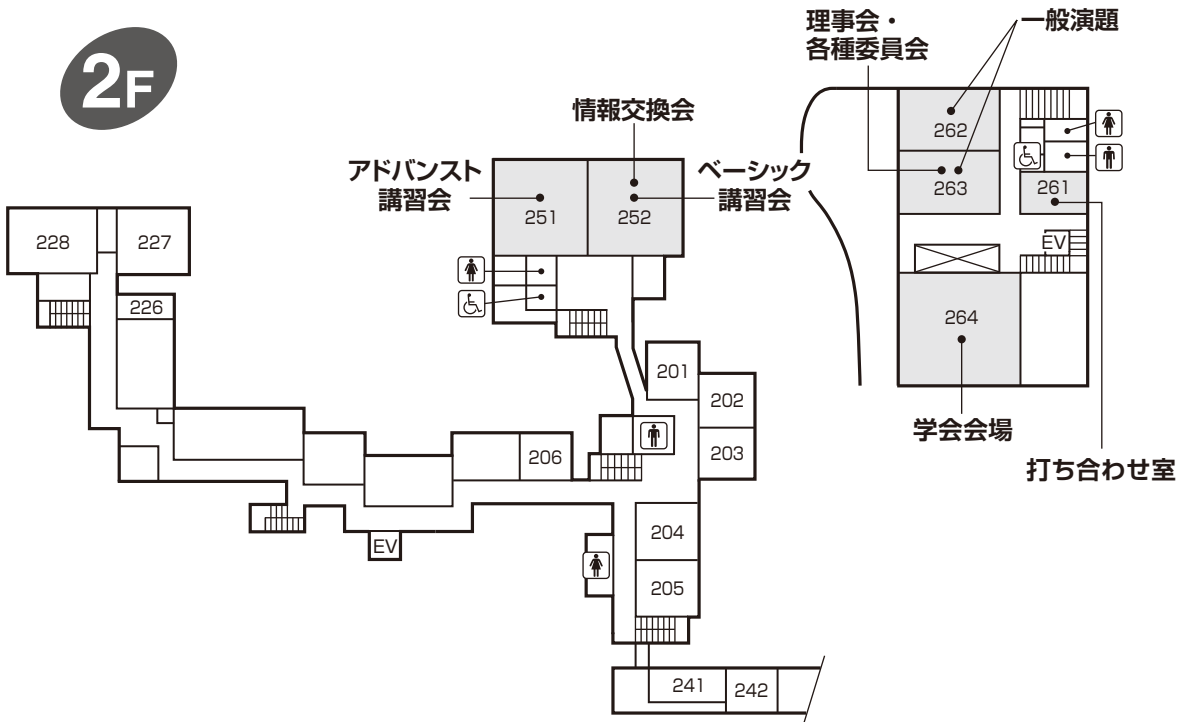
1F

東門

正門



2F



大会日程表

5月31日金		6月1日土				6月2日日		
トリニティホール		トリニティホール			チャペル	ブラウンホール		
会議室	263	262	263	264		251	252	
9:00		8:20~ 受付開始 (トリニティホール 1F 入口)					9:00~	受付開始 (ブラウンホール) (1F 入口)
				9:15~9:20 開会の辞				
10:00		9:30 } 11:00 一般演題 1	9:30 } 11:00 一般演題 2	9:30~11:00 一般演題 3		9:50~ 開会挨拶		
11:00				11:10~11:55 特別講演 座長：杉田 峰康、白井 幸子 演者：石居 基夫		10:00 } 16:00 アドバンスト講習会 講師：白井 幸子	10:00 } 16:00 ベーシック講習会 講師：中村 延江、花岡 啓子	
12:00				12:00~ 評議員会				
13:00					12:45~ パイプオルガン演奏			
					13:00~13:40 総会			
14:00	14:00 } 16:00 各種委員会			13:50~14:40 招待講演 座長：村上 正人、中村 延江 演者：近本 洋介				
15:00				14:50~16:50 シンポジウム 座長：芦原 睦 島田 涼子 シンポジスト：鈴木 佳子 室城 隆之 吉内 一浩 中山 香代				
16:00						16:00~ 閉会挨拶		
17:00				17:00~17:40 理事長講演 座長：松野 俊夫 演者：江花 昭一				
18:00				17:45~ 閉会の辞				
		18:00~19:30 情報交換会 会場：ブラウンホール 2F 252						

プログラム

6月1日(土)

9:15～9:20 **開会の辞** 田副 真美(ルーテル学院大学 総合人間学部) 264会場

9:30～11:00 **一般演題1** 262会場

座長：鈴木 順(奥州市国民健康保険 前沢診療所)

小澤 真(聖徳大学 心理・福祉学部)

1-1 高齢者における人工内耳手術前後の心理側面の変化

—エゴグラムによる検討—

○前川 明日彩¹⁾、片岡 ちなつ¹⁾、田副 真美¹⁾²⁾、浅野 和海¹⁾、大石 直樹¹⁾、
神崎 晶¹⁾、小川 郁¹⁾

1)慶應義塾大学病院 耳鼻咽喉科、2)ルーテル学院大学

1-2 中年期男女の内的側面における特徴と主観的幸福感との関連

—自我状態の群別による検討—

○笹尾 千津子¹⁾、田副 真美²⁾

1)ルーテル学院大学大学院 総合人間学研究科 臨床心理学専攻、2)ルーテル学院大学

1-3 外来診療で TA を活用するための一つのアイデア：3段階モデルの考え方

○米沢 宏

ジャパン EAP システムズ

1-4 『蜘蛛の糸』心理ゲームのアンチテーゼにみられる脚本的とらわれからの解放

○和泉 光則

東海大学 札幌教養教育センター

1-5 3年以上持続した症状が脚本の再構築で消失した症例

—脚本(ゲシュタルト・フレーム)の再構築に必要なこと—

○須田 道雄

医療法人 弘生堂 須田医院

1-6 自己効力感を高めることでポリファーマシーから決別した症例

—脚本(ゲシュタルト/フレーム)の再構築に必要なこと—

○須田 道雄

医療法人 弘生堂 須田医院

座長：柴山 修（横浜労災病院 心療内科）

押川 聖子（神奈川大学 保健管理センター）

2-1 交流分析から捉えた大学生のスマートフォンでのLINEのやりとりの検証
—パーソナリティ特性とラケット感情の関係を中心にして—○岡本 幸二¹⁾、齋藤 瞳²⁾、岡本 香²⁾

1) 栃木県立宇都宮工業高等学校、2) 東京福祉大学

2-2 大学生の過剰適応・対人ストレスの関連
—交流分析理論における基本的構えを用いた比較—○君塚 友美¹⁾、田副 真美¹⁾²⁾

1) 慶應義塾大学病院 耳鼻咽喉科、2) ルーテル学院大学

2-3 大学生の学部における性格特性の特徴と座席位置選択に関する考察○水野 慶子¹⁾、青木 真奈²⁾

1) 児童発達支援事業所 そだち園、2) 東洋学園大学

2-4 自我状態に応じたIT版心身健康増進プログラムの効果検証
—フォローアップデータに基づいて—○齋藤 瞳¹⁾、木村 穰²⁾、日高 なぎさ³⁾、佐藤 豪⁴⁾

1) 東京福祉大学、2) 関西医科大学、3) 大阪産業大学、4) 同志社大学

2-5 自分と向き合う復職支援～TAを用いたデイケアの試み

○松本 敦

医療法人社団心癒会 しのだの森ホスピタル

2-6 交流分析と認知行動療法を併用した職場適応障害の1例

○前田 わかな、宮崎 貴子、芦原 睦

中部労災病院 心療内科

座長：端詰 勝敬（東邦大学 医学部心身医学講座）

細谷 紀江（学習院大学 学生センター 学生相談室）

3-1 気管支喘息患者における精神科的合併症とTEG-IIの評価○齋藤 紀先¹⁾、里村 峻²⁾

1) 弘前大学大学院医学研究科 臨床検査医学講座、

2) 社会福祉法人やまぶき福祉会 放課後等デイサービス太陽

3-2 入院治療を行った神経性やせ症（AN）双胎児におけるエゴグラムの検討○黒岩 千枝¹⁾、田副 真美¹⁾²⁾、小木 曾梓¹⁾、岩波 純平¹⁾、吉田 有希¹⁾、
作田 亮一¹⁾

1) 獨協医科大学埼玉医療センター 子どものこころ診療センター、2) ルーテル学院大学

3-3 児童のアタッチメント機能と自我機能の関係

○小泉 光世¹⁾²⁾

- 1) 北海道大学大学院 理学院 自然史科学専攻 科学コミュニケーション講座 科学教育研究室、
2) 東北大学 オープンオンライン教育開発推進センター

3-4 幼少期に経験したほめと自己肯定感の関連

○大平 泰子

富山国際大学 子ども育成学部

3-5 異なった教育環境下における自己変容プログラム効果のエゴグラムを用いた比較

○中尾 憲司¹⁾²⁾³⁾⁴⁾

- 1) 株式会社ヒューマンアクティベーション、2) 京都産業大学 全学共通教育センター、
3) 武蔵野学院大学、4) 武蔵野学院大学大学院 国際コミュニケーション研究科

3-6 交流分析における逆転移感情について —ドライバー、ラケット感情の考えを利用して—

○高品 孝之¹⁾²⁾

- 1) 札幌北高校、2) 小田原短期大学 通信教育学部

11:10～11:55 **特別講演**

264会場

座長：杉田 峰康(福岡県立大学 名誉教授)
白井 幸子(ルーテル学院大学 名誉教授)

キリスト教の信仰(神との関係を生きること)と交流分析

石居 基夫(ルーテル学院大学総合人間学部 教授、日本ルーテル神学校 校長)

12:00～

評議員会

264会場

12:45～

パイプオルガン演奏

チャペル

13:00～13:40

総 会

チャペル

13:50～14:40

招待講演

264会場

座長：村上 正人(国際医療福祉大学 赤坂心理・医療福祉マネジメント学部)
中村 延江(中央心理研究所、桜美林大学 名誉教授)

患者エクスペリエンス(Patient Experience: PX) 米国における医療従事者患者間コミュニケーションの改善方略の成功要因と 日本における交流分析への期待

近本 洋介(ケアリング・アクセント(Caring Accent)主宰、Certified Patient Experience Professional)

座長：芦原 睦（中部労災病院 心療内科）
島田 涼子（人間総合科学大学 人間科学部）

[各領域における脚本分析の用い方]

S-1 学生相談（教育領域）における脚本分析の用い方

鈴木 佳子
東京経済大学 学生相談室

S-2 司法領域における脚本分析の用い方

室城 隆之
江戸川大学 社会学部 人間心理学科

S-3 各領域における脚本分析の用い方：医療領域

吉内 一浩
東京大学医学部附属病院 心療内科

S-4 地域包括支援センターにおける交流分析・人生脚本の活用について

中山 香代
多摩市中部地域包括支援センター

17:00～17:40 **理事長講演**

264会場

座長：松野 俊夫（日本大学 医学部一般教育系心理学分野）

バーン心理学の交流分析から脚本分析への発展

～『エリック・バーン脚本分析のすべて 一人の運命の心理学』の発刊にあたって～

江花 昭一（日本交流分析学会 理事長、神奈川大学 特別教授）

17:45～ **閉会の辞** 田副 真美（ルーテル学院大学 総合人間学部）

264会場

18:00～19:30 **情報交換会**

ブラウンホール 252会場

講習会プログラム

6月2日(日)

9:50～ **開会の辞** 田副 真美(ルーテル学院大学 総合人間学部) 252会場

10:00～16:00 **講習会** 252会場・251会場

【基礎講習会】 252会場

交流分析の基礎から脚本分析までを学ぶ

講師：花岡 啓子(吉祥寺通り花岡クリニック)
中村 延江(中央心理研究所、桜美林大学 名誉教授)

【アドバンスト講習会】 251会場

再決断療法を学ぶ

講師：白井 幸子 先生(ルーテル学院大学 名誉教授)

A series of 30 horizontal dotted lines for writing.

抄 録

特別講演

招待講演

理事長講演

シンポジウム

キリスト教の信仰(神との関係を生きること)と 交流分析

石居 基夫

日本ルーテル神学校
ルーテル学院大学

キリスト教の信仰は、何かの信念を持つことや教義を理解し信じ込むことではなく、生きる神と具体的対話、交流を生きることであると言って良い。その意味で、信仰者一人ひとは、神からの語りかけに応答して自らの人生を生きるものであり、この神との関係の中に自己自身と世界を受容し、過去から未来に向かう自分自身の歩みを進めていくことになる。

この神関係において、赦しと慰め、癒しを与えられることを「救い」と呼ぶ。つまり、救いは単に天国における死後の平安を意味するのではなく、具体的に生きられる人生へ希望と勇気をもたらす。そして、神の御心としての正義や公平、平和などの価値を求め、自分のためばかりではなく、むしろ他者のために生きることを喜びとする人生を選び、その決断を為さしめていく根源的な力を神から受け取る。

この「救い」を生きる状態は、交流分析の基本的構え「I am OK. You are OK.」の状態を生きるということと重なるだろう。交流分析は、具体的な人間関係のあり方(ストロークのやりとり)の中で、こうした「構え」(position)を得ることを見る。その意味で言えば、神との交流もまた、交流分析的に見ることもできるだろう。

神の人間への語りかけには、二種類のことばがある。一つは律法のことばで、人間のなすべきことを命令することばである。もう一つは福音のことばで、これは、私たちにに対する絶対的肯定のストロークである。神の本来的な語りかけは福音のことばであって、非本来的な律法のことばに勝り、信仰者一人ひとりを生かす究極的な語りかけとされる。

この神との交流は、礼拝や牧会などの信仰的な「場」を基礎としながら、具体的には他者を通して与えられるが、その他者である具体的な人間とのやりとりを超える超越的なものとして受け取られるものである。それゆえに、逆に言えば、交流分析において捉えられる具体的な人間関係の姿とその意味を、信仰の世界は一旦超越的な神との関係の中におくことで、新しい姿と意味へと転換するものともなりうるということかもしれない。

信仰は、イエス・キリストご自身を究極的な神からの語りかけ(ストローク)として受け取ることであり、信仰者は、自らの人生の物語に、この神の語りかけにより絶えず新しい人生脚本を描きこんでいくことと言えるのではないか。

抄 録

一 般 演 題

1-1

高齢者における人工内耳手術前後の心理側面の変化
—エゴグラムによる検討—

○前川 明日彩¹⁾、片岡 ちなつ¹⁾、田副 真美¹⁾²⁾、浅野 和海¹⁾、大石 直樹¹⁾、
神崎 晶¹⁾、小川 郁¹⁾

1)慶應義塾大学病院 耳鼻咽喉科、2)ルーテル学院大学

【目的】人工内耳は、補聴器による効果が十分得られない難聴者に有効な外科的治療であるが、長期的リハビリが必要となるため、近年装用者の心理的諸問題が注目されている。リハビリを行う上でも聴取成績だけでなく、個人が抱える心理面を考慮していく必要がある。我々は術前後の思考・行動面の変化を東大式エゴグラム TEG を用いて検討してきており、昨年の聴覚医学会では、術後高齢者で AC 低下、若年者で FC 上昇の傾向にあった事を報告した。今回は症例数を増やし、高齢者のみを対象に失聴期間に分けて検討した。

【対象・方法】2013年5月から2017年7月までに当院耳鼻咽喉科で手術を受け、継続治療している65歳以上の11名(男3名、女8名)を対象とした。術前(3ヶ月以内)と術後(音入れ後4~18ヶ月)に TEG を実施し、変化を調査した。また、失聴期間が2年以上の5名(長期群 73.2 ± 5.0 歳)と2年未満の6名(短期群 73.7 ± 4.8 歳)で比較を行った。手術の適用を判断するためうつ性自己評価尺度 SDS、認知症のスクリーニング MMSE を実施した。聞こえは術後半年に語音聴取評価検査(CI-2004)で評価した。

【結果】術前の SDS は 40.4 ± 11.6 点、術後は 40.8 ± 7.9 点、術前の MMSE は 24.0 ± 2.0 点と正常範囲であった。TEG では術後 AC 低下例が8例(72.2%)で、上昇例に比して有意に多かった($p < 0.05$)。

また、CP 上昇例が8例(72.2%)で、低下例に比し多かった。

失聴期間の比較では、術後の聴取率は短期群で平均43.3%、長期群で平均29.4%となり、短期群でより聴力が得られた。SDS は術前で短期群 42.5 ± 13.5 点、長期群 37.8 ± 8.3 点を示し、短期群の方がうつの項目が高値であった。TEG では A 上昇例が長期群で4例(80.0%)、短期群では2例(33.3%)、で、長期群において A 上昇の傾向がみられた。2群の5つの自我状態の平均値を比べると、短期群は長期群に比して低値を示した。

【考察・まとめ】AC 低下、CP 上昇の要因として、音による情報を得ることで、状況判断が可能となり、依存性が低下、主体的となったためと思われる。臨床的な印象では、長期群は少しの音の聴取でも満足感が得られる傾向があり、より自律的になり A が上昇したと考えられる。短期群は聴覚障害の受容が不十分で、術後も期待した程の聴取でないと感じる傾向にあり、TEG と SDS からエネルギー低下の状態が推察できる。人工内耳手術前後に TEG を施行することで自我状態を把握でき、失聴期間に応じたりハビリを考慮することの必要性が示唆された。

日本交流分析学会

大会	開催日	大会長	準備委員長	開催地
第1回	1976年5月23日	池見酉次郎	桂 戴作	東京都
第2回	1977年6月04日・05日	池見酉次郎		福岡市
第3回	1978年6月10日・11日	池見酉次郎	河野 博臣	神戸市
第4回	1979年6月02日・03日	池見酉次郎	国谷 誠朗	東京都
第5回	1980年5月17日・18日	石川 中		東京都
第6回	1981年5月23日・24日	桂 戴作	山口 道也	東京都
第7回	1982年5月22日・23日	筒井 末春	西沢 道元	東京都
第8回	1983年5月28日・29日	川上 澄	佐々木大輔	弘前市
第9回	1984年6月02日・03日	杉田 峰康	松枝 延安	長崎市
第10回	1985年6月08日・09日	杉溪 一言	国谷 誠朗	東京都
第11回	1986年5月24日・25日	中川 哲也	竹野孝一郎	福岡市
第12回	1987年6月26日・27日	新里 里春		沖縄県
第13回	1988年5月07日・08日	河野 友信		東京都
第14回	1989年5月20日・21日	末松 弘行		東京都
第15回	1990年5月19日・20日	佐々木雄二		つくば市
第16回	1991年5月18日・19日	深沢 道子		東京都
第17回	1992年5月09日・10日	国谷 誠朗		川崎市
第18回	1993年5月22日・23日	佐々木大輔	遠山 宜哉	弘前市
第19回	1994年5月21日・22日	山本 晴義	江花 昭一	横浜市
第20回	1995年6月10日・11日	菊池 長徳	大森 啓義	東京都
第21回	1996年5月10日・11日	石津 宏	仲本 政雄	沖縄県
第22回	1997年6月14日・15日	中村 延江	松野 俊夫	東京都
第23回	1998年5月16日・17日	吾郷 晋浩	原 信一郎	東京都
第24回	1999年5月15日・16日	久村 正也	濱田 康	札幌市
第25回	2000年5月13日・14日	水野 正憲	松岡 洋一	岡山市
第26回	2001年5月26日・27日	白井 幸子	国谷 誠朗	東京都
第27回	2002年5月25日・26日	西川 和夫		津市
第28回	2003年6月05日・06日	久保木富房		東京都
第29回	2004年5月14日・15日	久保 千春		福岡県
第30回	2005年6月16日・17日	坪井 康次		東京都
第31回	2006年8月30日	村上 正人		東京都
第32回	2007年6月09日・10日	松岡 洋一		岡山市
第33回	2008年5月17日・18日	齋藤 恵子		盛岡市
第34回	2009年10月03日・04日	江花 昭一		横浜市
第35回	2010年6月12日・13日	芦原 睦		名古屋市
第36回	2011年9月18日・19日	小池 一喜		東京都
第37回	2012年7月15日・16日	石川 俊男		東京都
第38回	2013年8月15日～17日	島田 凉子	久保 千春	大阪市
第39回	2014年9月13日・14日	岡田 宏基		高松市
第40回	2015年10月10日～12日	松野 俊夫		東京都
第41回	2016年10月14日～16日	小澤 真		千葉県
第42回	2017年10月7日～9日	小山 敦子	阪本 亮	東大阪市
第43回	2018年5月26日～27日	吉内 一浩	大谷 真	東京都
第44回	2019年5月31日～6月2日	田副 真美	片岡ちなつ	東京都

大会委員名簿

大会長 田副 真美

大会事務局長 片岡ちなつ

企画委員長 松野 俊夫

企画委員 青木 絢子 芦原 睦 石風呂素子
江花 昭一 熊谷 敬子 君塚 友美
中村 延江 花岡 啓子 三輪 雅子

プログラム委員 小澤 真 小池 一喜 細谷 紀江
鈴木 佳子 村上 正人

(五十音順)

謝 辞

大会開催にあたり、ご協力いただいた関係者の皆様に感謝申し上げます。

日本交流分析学会 第44回学術大会
大会長 田副 真美

日本交流分析学会 第44回学術大会
プログラム・抄録集

大会長：田副 真美

発行日：2019年5月□日

事務局：ルーテル学院大学 田副研究室内
〒181-0015 東京都三鷹市大沢3-10-20
E-mail：jsta2019@gmail.com

出版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<https://secand.jp/>

日本交流分析学会第44回学術大会事務局

〒181-0015 東京都三鷹市大沢3-10-20

ルーテル学院大学 内

TEL.0422-31-4611

E-mail: jsta2019@gmail.com